

2022年度
決算資料

2023年5月12日

株式会社 TBS ホールディングス

2022年度 通期決算ハイライト

2023年度 業績見通し

株主還元

経営計画の進捗と成長投資

今後の重点施策

参考資料

本資料に記載されている将来の当社業績に関する見通しほか全ての内容は、本資料作成時点の当社の判断に基づくものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。

将来の業績は、経済情勢、市場動向、経営環境などの変化により、記載事項と異なる可能性があることに十分ご留意下さい。また、本資料の無断転載はお断りいたします。

◇お問い合わせ先

〒107-8006

東京都港区赤坂5丁目3番6号 株式会社TBSホールディングス 財務戦略局 IR部

Tel : 03-3746-1111 (代表) HP : <https://www.tbsholdings.co.jp/ir/>

2022年度 通期決算ハイライト

2023年度 業績見通し

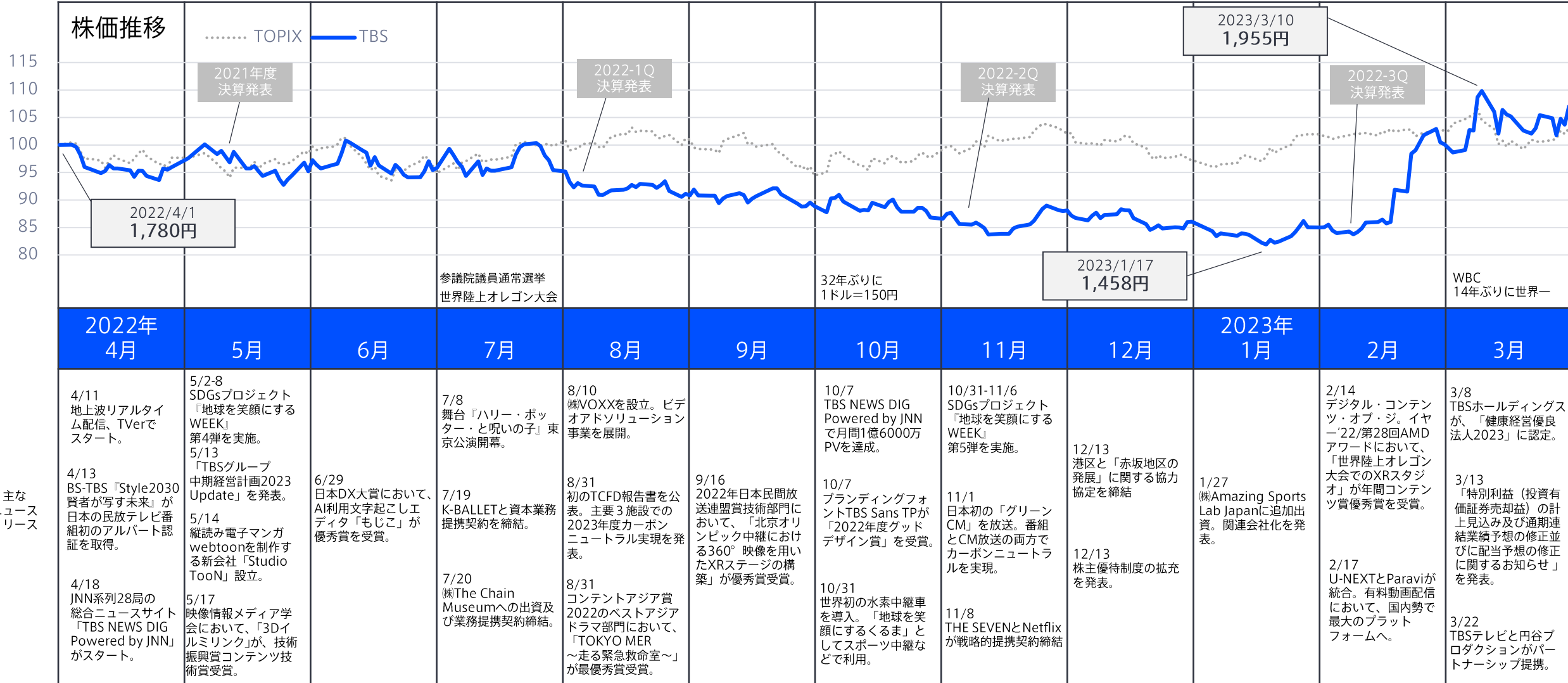
株主還元

経営計画の進捗と成長投資

今後の重点施策

参考資料

※2022/4/1の株価、指数を100として比較しています。



主なニュースリリース

2022年度決算

- ▶ 連結全体では増収増益。2009年度のホールディングス化以降、売上高、営業利益ともに最高。
- ▶ メディア・コンテンツ事業は、TBSテレビの無料・有料動画配信事業が大幅に伸長したことに加え、事業部門の催事・興行で大型イベントが大きく貢献し増収。一方で、地上波広告収入減少の影響などにより微減益。
- ▶ ライフスタイル事業は、感染症に伴う自粛要請解除による人流回復などで増収増益。
- ▶ 不動産・その他事業では、賃料収入の回復により増収となったものの、水道光熱費の増加などにより減益。

2023年度 業績見通し

- ▶ 放送関連事業の持ち直し、成長分野である配信や、催事・興行等の事業部門も更なる伸長を見込んでおり、増収かつ経常利益までの増益予想。
- ▶ 「TBSグループ VISION2030」の達成に向けて、引き続き放送事業の価値向上に取り組みつつ、拡張戦略「EDGE」の推進で収益の裾野を広げ、着実な成長へ。

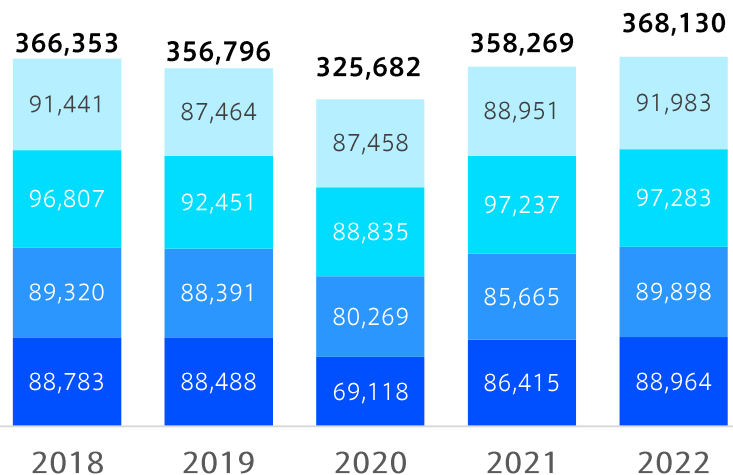
メディア・コンテンツ事業では、TBSテレビの無料・有料動画配信が大幅に伸長したことに加え、事業部門の催事・興行で大型イベントが大きく貢献し増収。一方で、地上波広告収入減少の影響などにより微減益。ライフスタイル事業では、感染症に伴う自粛要請解除による人流回復などで増収増益。不動産・その他事業では、賃料収入の回復により増収となったものの、水道光熱費の増加などにより減益。連結全体では、増収増益。

(単位：百万円)

連 結	2021年度	2022年度	前年差	増減率
売 上 高	358,269	368,130	+9,860	+2.8%
営 業 利 益	20,346	20,782	+436	+2.1%
経 常 利 益	30,707	35,086	+4,379	+14.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	32,008	35,182	+3,173	+9.9%

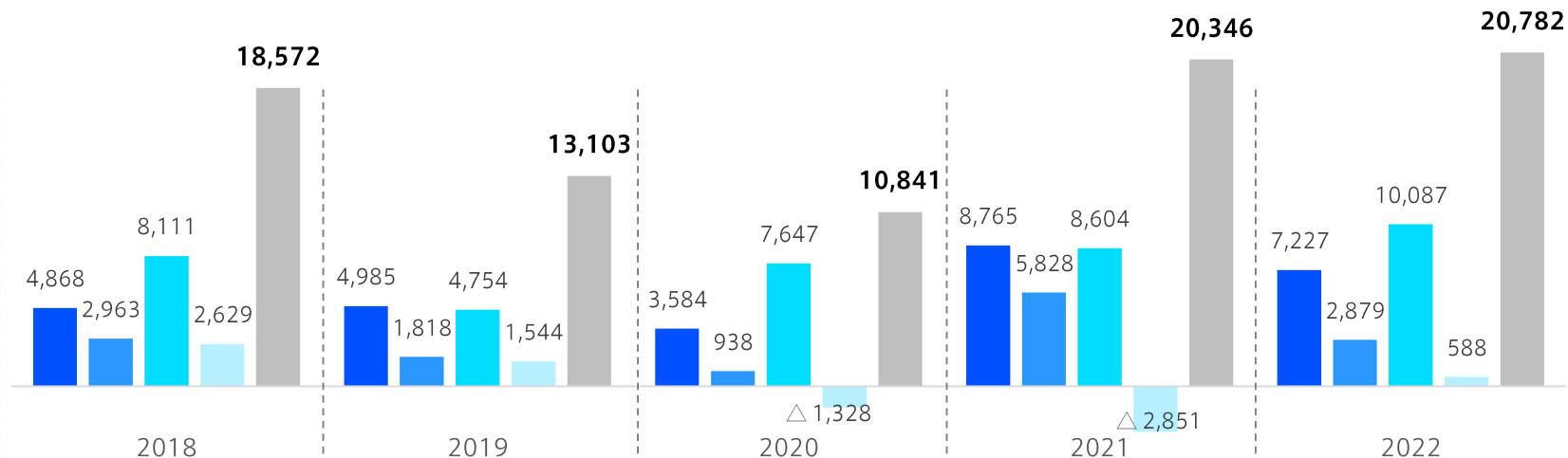
売上高

■ 1Q ■ 2Q ■ 3Q ■ 4Q



営業利益

■ 1Q ■ 2Q ■ 3Q ■ 4Q ■ 合計



(単位：百万円)

	外部売上				営業利益			
	2021年度	2022年度	前年差	増減率	2021年度	2022年度	前年差	増減率
メディア・コンテンツ	281,414	285,230	+3,815	+1.4%	10,933	10,911	△22	△0.2%
ライフスタイル	61,023	66,391	+5,367	+8.8%	2,362	3,064	+702	+29.7%
不動産・その他	15,831	16,508	+677	+4.3%	7,062	6,798	△264	△3.7%
調整額	—	—	—	—	△11	8	+20	—
連結	358,269	368,130	+9,860	+2.8%	20,346	20,782	+436	+2.1%

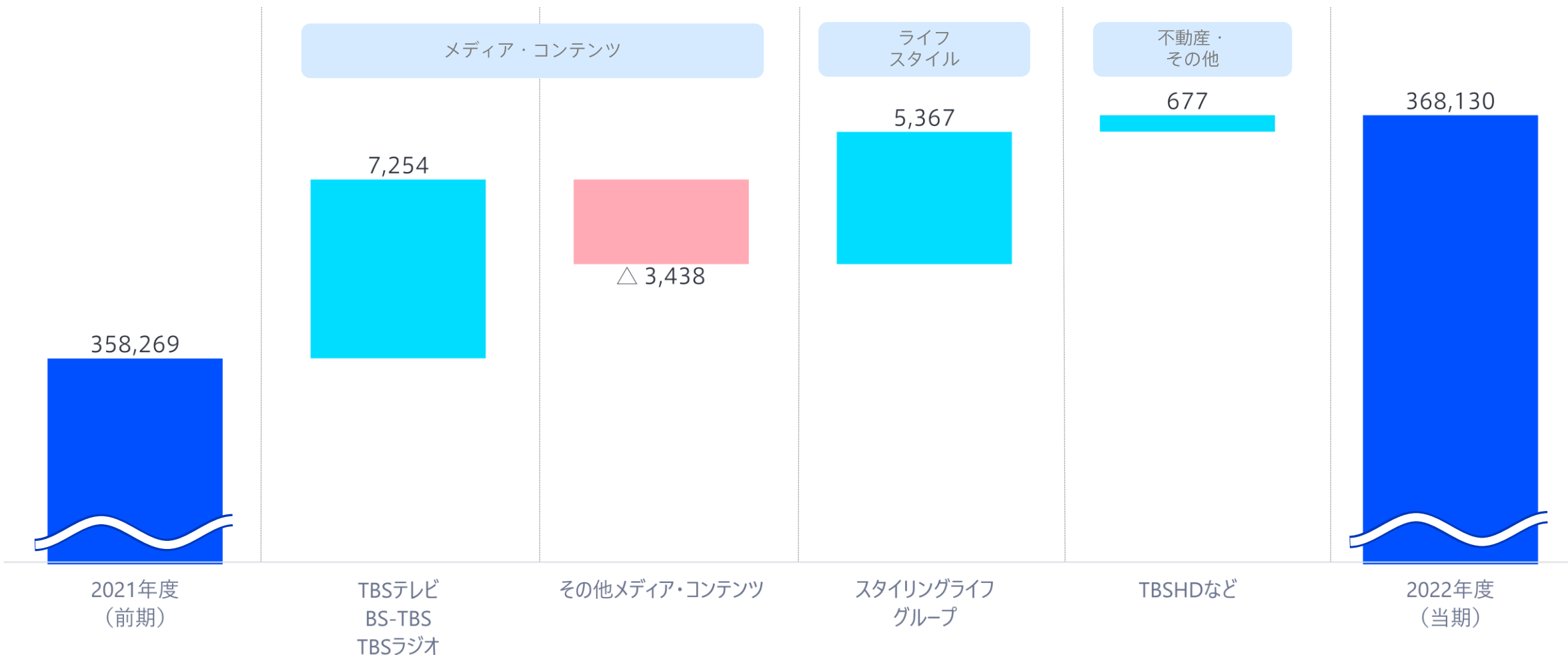
増減要因	外部売上	営業利益
メディア・コンテンツ	TBSテレビ (+6,638) BS-TBS (+881) TCエンタテインメント (△1,021) TBSアクト (△887) TBSスパークル (△723) マンガボックス (△591)	TBSテレビ (+1,251) BS-TBS (+329) TBSスパークル (△481) Seven Arcs (△264)
ライフスタイル	スタイリングライフグループ (+5,367)	スタイリングライフグループ (+702)
不動産・その他	TBS HD (+837) TBSヘクサ (△127)	TBS HD (+400) TBSテレビ (△165) 赤坂熱供給 (△156)

連結セグメント別 売上高（外部売上）の増減要因

▶ メディア・コンテンツ事業では、TBSテレビの無料・有料動画配信が大幅に伸ばしたことに加え、事業部門の催事・興行で大型イベントが大きく貢献し増収。ライフスタイル事業も自粛要請解除による人流回復などで増収。不動産・その他事業も、賃料収入の回復により増収。連結全体でも増収。

■ 売上実績 ■ 増加分 ■ 減少分

(単位：百万円)

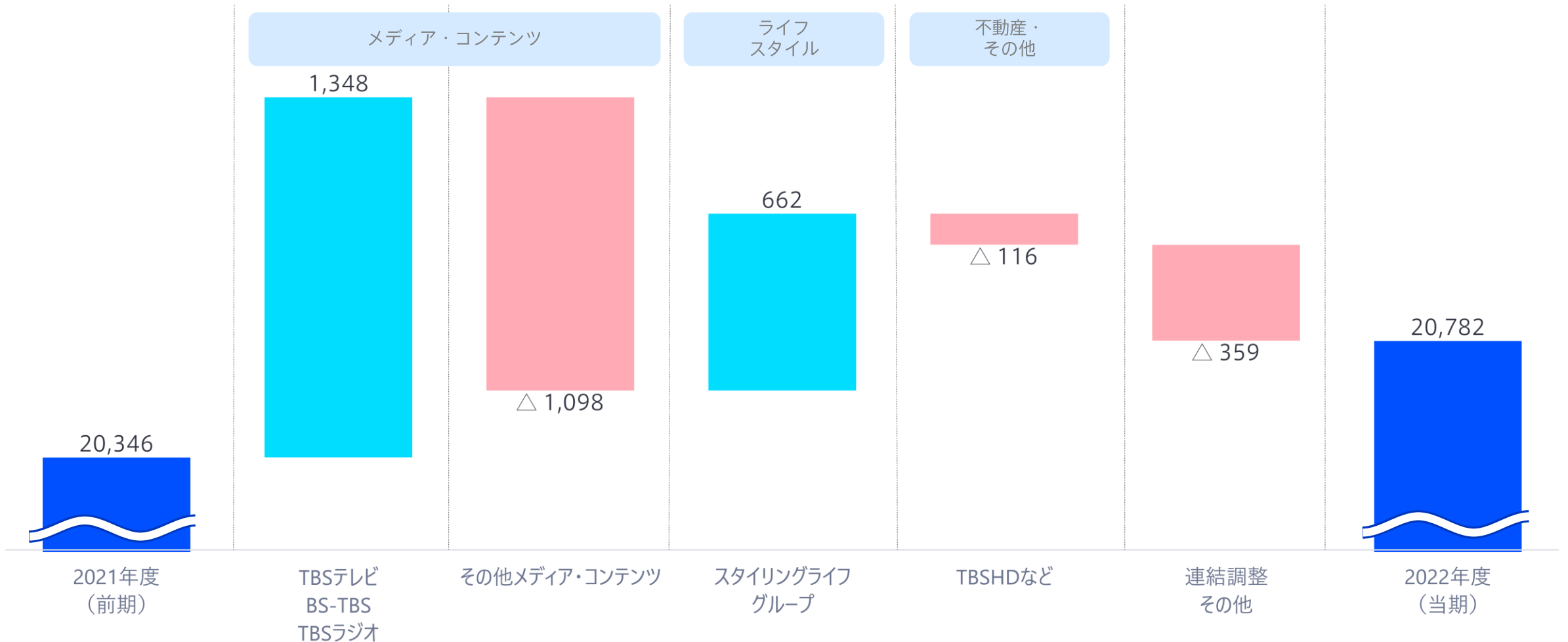


連結セグメント別 営業利益の増減要因

▶ メディア・コンテンツ事業は、地上波広告収入減少の影響などにより、連結調整その他を加味すると微減益。
 ライフスタイル事業は、増収に伴う増益。不動産・その他事業は、水道光熱費の増加などにより減益。連結全体では増益。

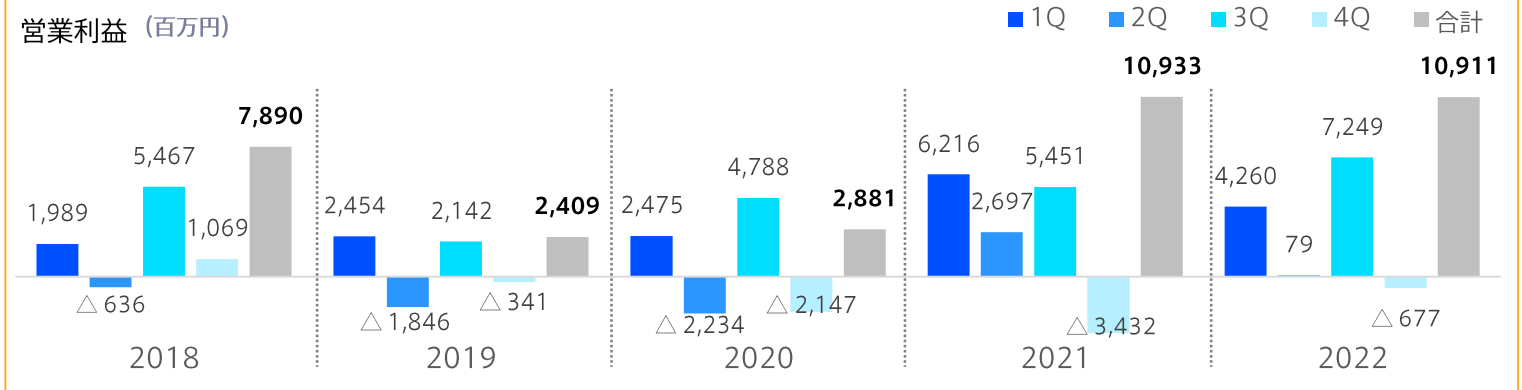
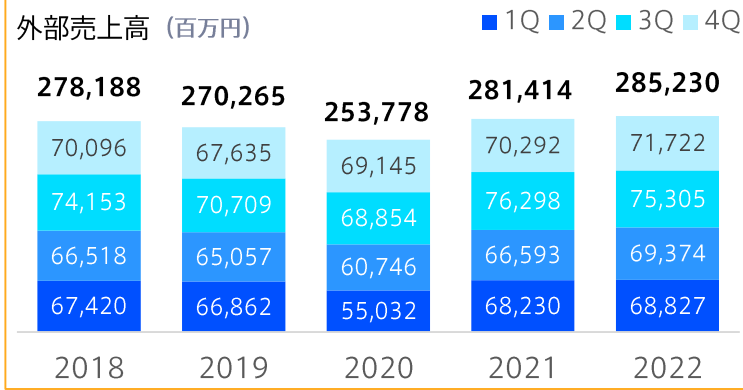
■ 営業利益 ■ 増加分 ■ 減少分

(単位：百万円)

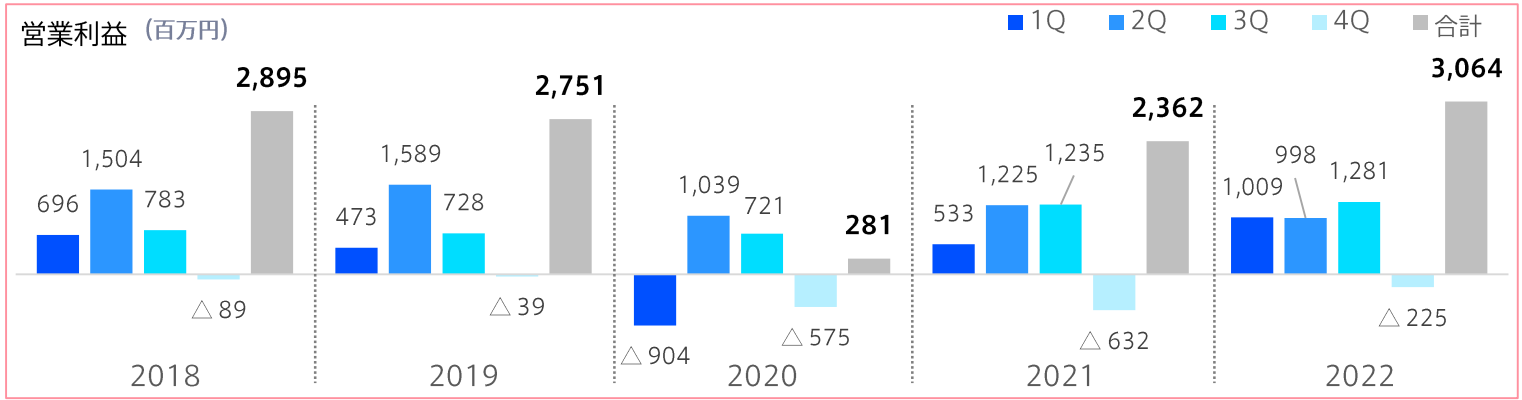
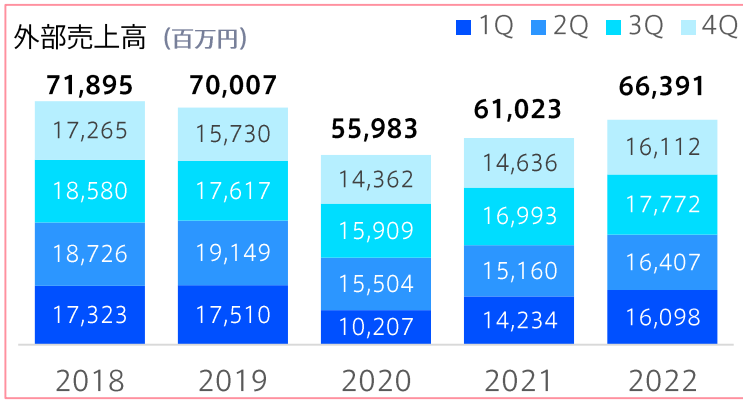


連結セグメント別 経年推移

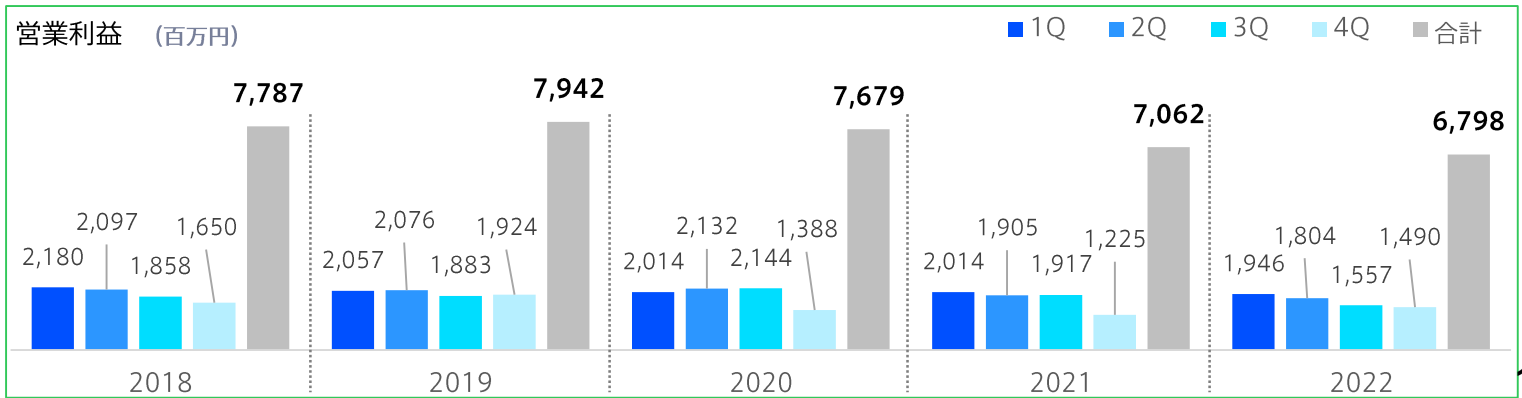
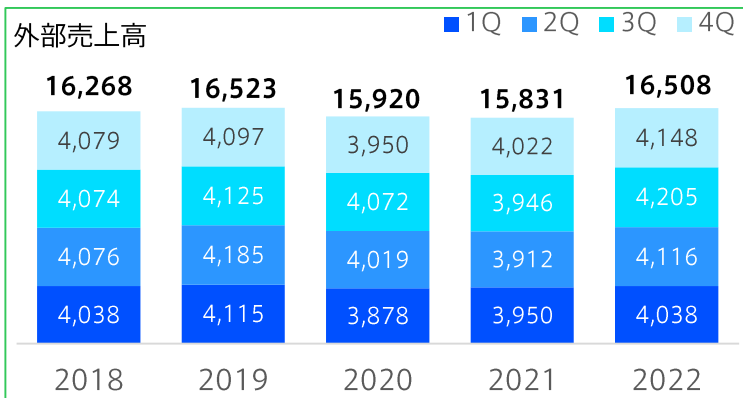
メディア
コンテンツ



ライフ
スタイル



不動産
その他

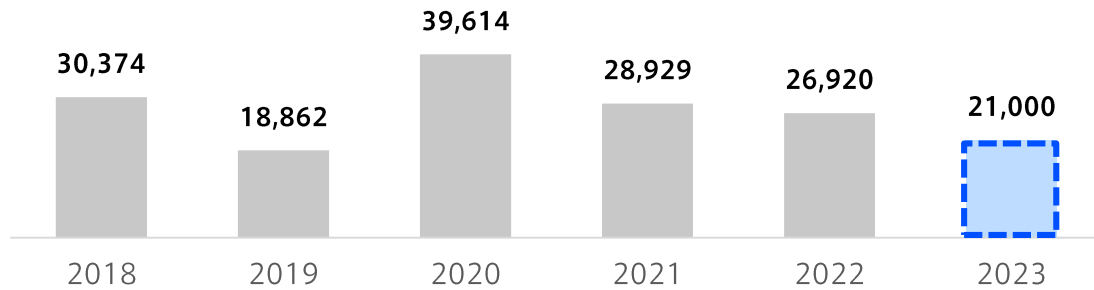


設備投資と減価償却費

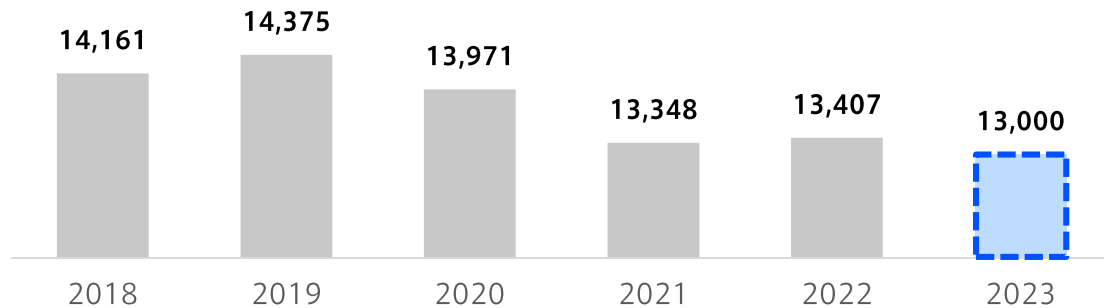
(単位：百万円)

連結	2022年度	前年差	2023年度 予想
設備投資	26,920	△2,009	21,000
減価償却費	13,407	+59	13,000

連結設備投資



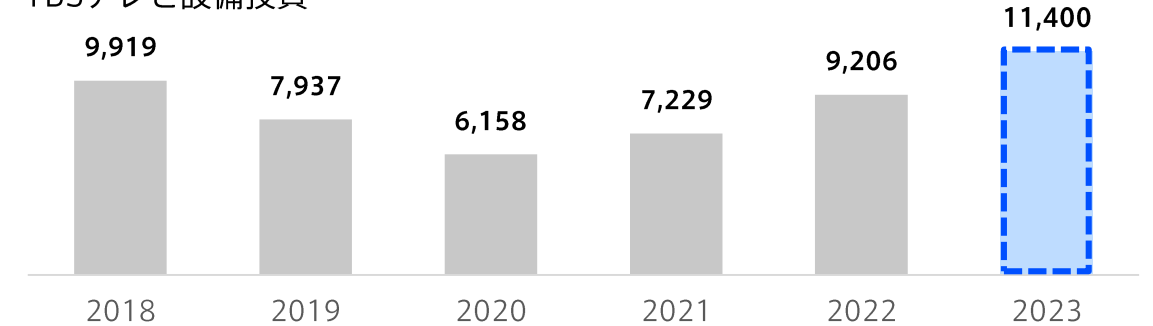
連結減価償却費



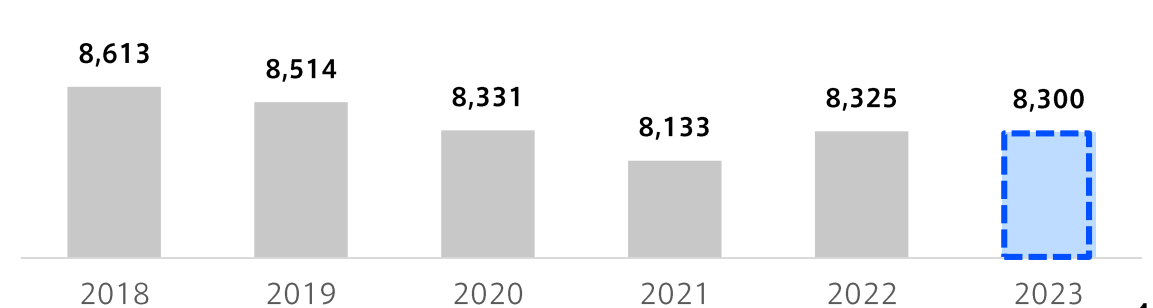
(単位：百万円)

TBSテレビ	2022年度	前年差	2023年度 予想
設備投資	9,206	+1,977	11,400
減価償却費	8,325	+191	8,300

TBSテレビ設備投資



TBSテレビ減価償却費



テレビ部門では、タイム収入、スポット収入が減収となったものの、無料・有料動画配信が大幅に伸長したことで増収。
 事業部門では、舞台『ハリー・ポッターと呪いの子』の公演開始、「パリ・サン＝ジェルマン ジャパンツアー2022」も貢献したことで大幅増収。
 営業利益は、増収に伴い増益。経常利益は、増収に加え受取配当金の増加等により増益。当期純利益は、前年の投資有価証券売却益が大きく、反動で減益。

(単位：百万円)

TBSテレビ	2021年度	2022年度	前年差	増減率
売上高	217,450	224,089	+6,639	+3.1%
営業利益	13,180	14,096	+915	+6.9%
経常利益	15,328	16,818	+1,489	+9.7%
当期純利益	16,233	10,722	△5,510	△33.9%

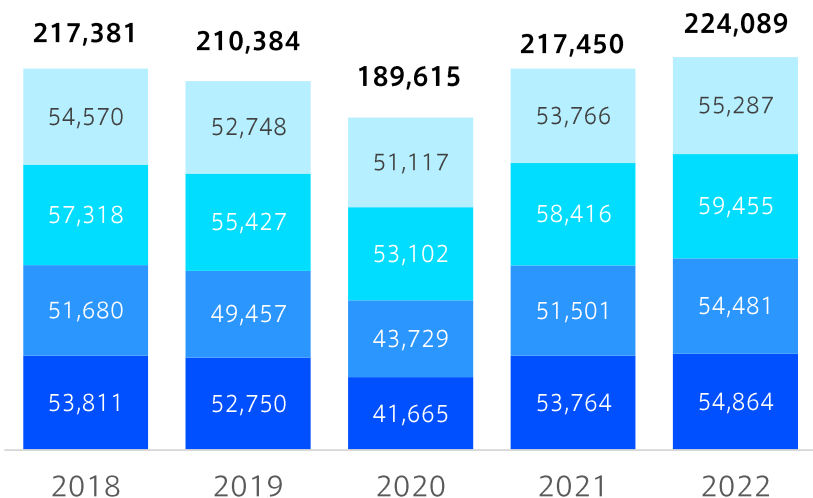
営業費用等

- 番組原価 △ 912
- 代理店手数料 △ 535 (当期 30,477)
- ネットワーク費 △ 86
- 事業部門営業費用 + 4,184

- 特別利益 (投資有価証券売却益) 533
- 特別損失 (退職給付費用, 固定資産撤去費用, 投資有価証券評価損) 1,079

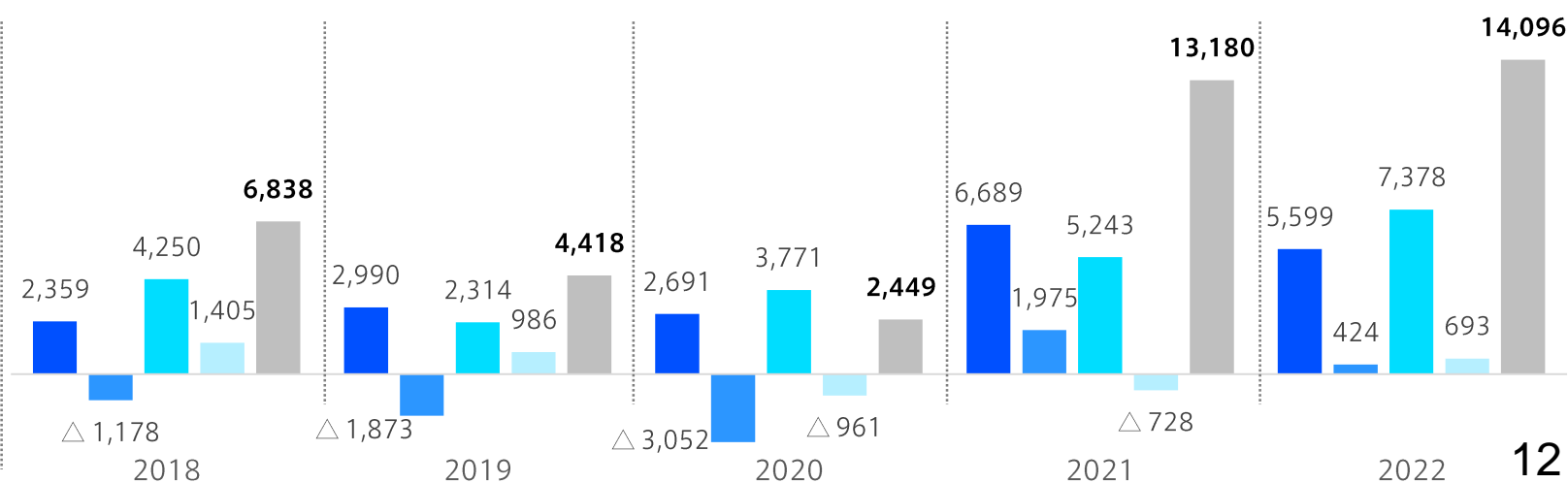
売上高

■ 1Q ■ 2Q ■ 3Q ■ 4Q



営業利益

■ 1Q ■ 2Q ■ 3Q ■ 4Q ■ 合計

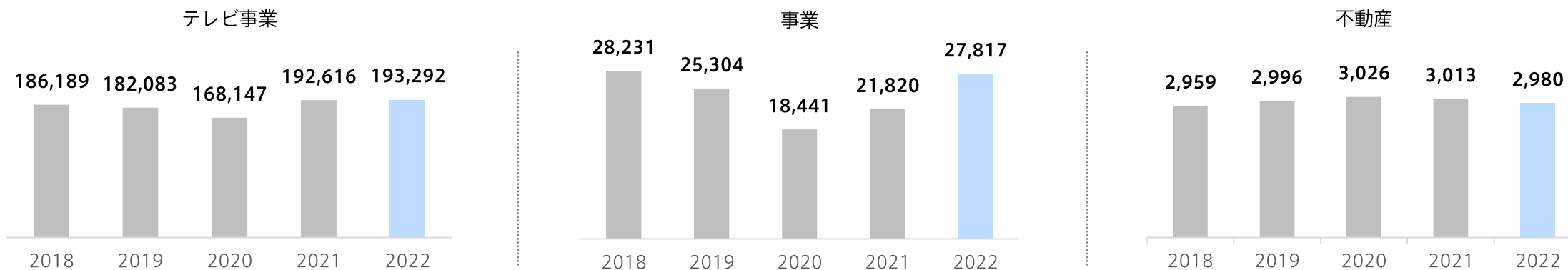


(単位：百万円)

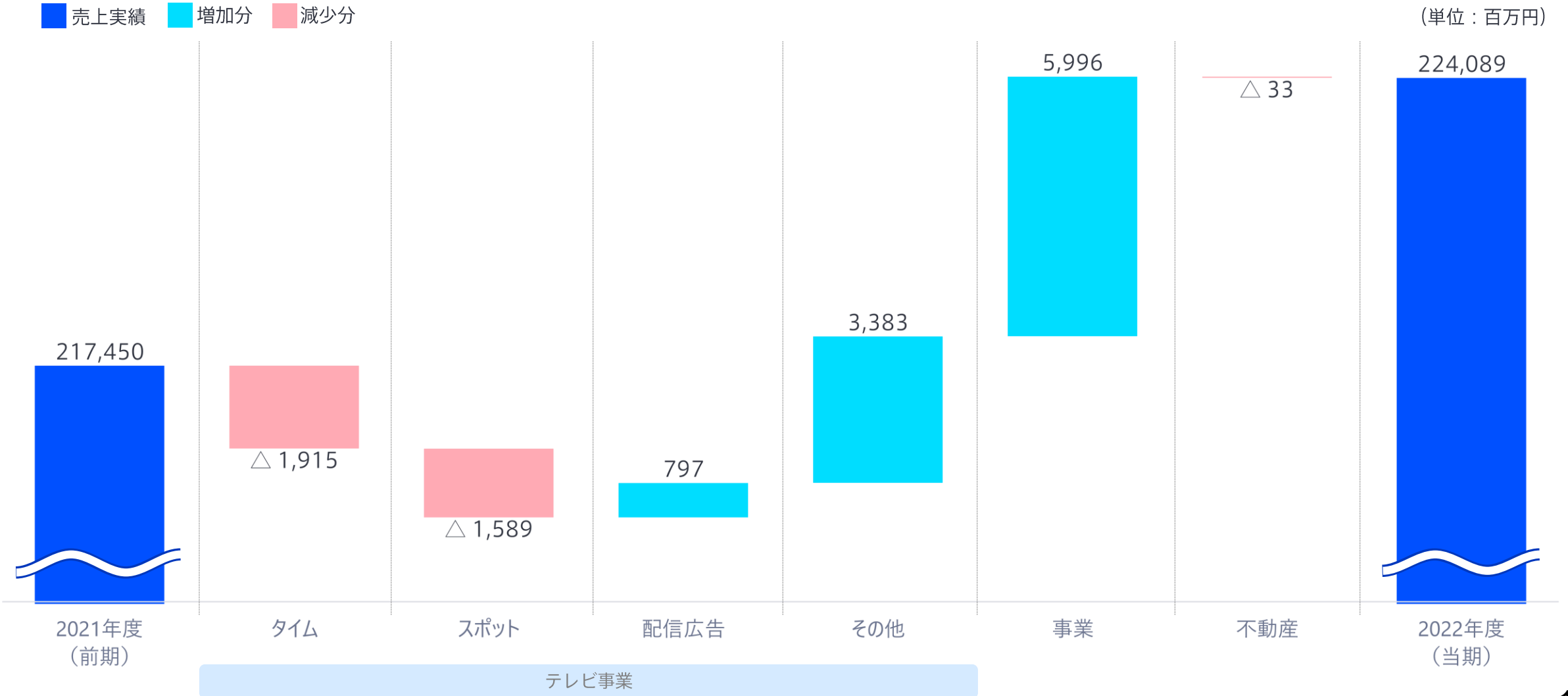
	2022年度	前年差
テレビ事業	193,292	+675
－ タイム	79,916	△1,915
－ スポット	82,969	△1,589
－ 配信広告 ※1	5,668	+797
－ その他	24,738	+3,383
事業 ※2	27,817	+5,996
不動産	2,980	△33
収入合計	224,089	+6,639

※1. 前事業年度においてコンテンツ区分で開示していた収入のうち、当事業年度においては配信広告を別掲したうえで、配信広告以外をその他区分で集計。

※2. 2021年7月より事業部門にあった海外番販事業の一部をテレビ事業の「その他」に移管。



▶ テレビ部門では、タイム収入、スポット収入が減収となったものの、無料・有料動画配信が大幅に伸長したことで増収。
 事業部門では、舞台『ハリー・ポッターと呪いの子』の公演開始、「パリ・サン＝ジェルマン ジャパンツアー2022」も貢献したことで大幅増収。



テレビ番組原価（制作費）

第4四半期は、「WBC2023」があったものの、前年の「北京オリンピック」の反動減やドラマ等の費用減で減少。通期累計も前年比で減少。

(単位：百万円)

	2021年度実績	2022年度実績	前年差
第1四半期	22,631	23,218	+587
第2四半期	23,580	23,715	+134
第3四半期	24,769	24,357	△412
第4四半期	25,168	23,945	△1,222
(地上波直接費)	19,937	18,248	△1,688
(その他直接費及び間接費)	5,231	5,697	+466
通期累計	96,149	95,236	△912
(地上波直接費)	75,710	74,510	△1,199
(その他直接費及び間接費)	20,439	20,726	+286

テレビ番組原価に含まれる主な費用

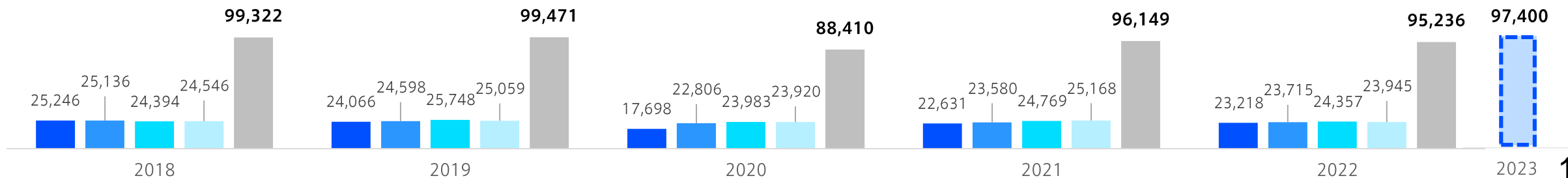
地上波直接費：
番組制作費、放送権料、美術制作費、技術制作費

その他直接費および間接費：
地上波以外の直接費、
減価償却費・社員人件費等の配賦原価

2023年度見込み 97,400

地上波直接費： 76,500
その他直接費および間接費： 20,900

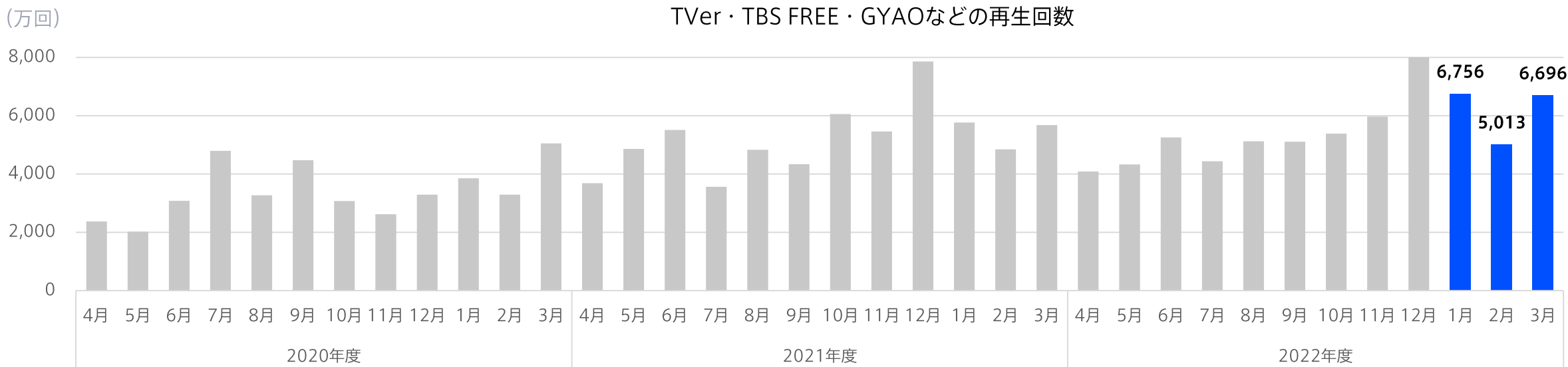
■ 1Q ■ 2Q ■ 3Q ■ 4Q ■ 合計



配信広告収入は、期中を通してセルスルー率が向上し、増収。再生回数、UB数も前年比プラスで推移。
 有料配信は、Paraviなど国内配信と海外配信（Netflix「未来日記」「君の花になる」「100万回言えばよかった」、Disney+「マイファミリー」「アトムの子」など）により、増収。

(再生回数、ユニークブラウザ数はビデオリサーチ調べ)		2022年度 前年増減率	2022年度 収入 (前年差)
配信広告収入 ※		+16.4%	5,668百万円 (+797百万円)
TVer・TBS FREE・GYAO! など	再生回数	+7.3%	配信広告収入 (百万円)
	UB (ユニークブラウザ) 数	+7.2%	
有料配信収入		+43.5%	

※第1四半期決算までの「無料配信収入」から計上方法を変更し、第2四半期決算資料より「配信広告収入」を記載。



▶ 舞台『ハリー・ポッターと呪いの子』の公演開始、「パリ・サン＝ジェルマン ジャパンツアー2022」の成功が大きく貢献し、催事・興行は大幅増収。映画では「ラーゲリより愛を込めて」、「わたしの幸せな結婚」といったヒット作や、過去作品の配信収入が好調。アニメでは映画「五等分の花嫁」の大ヒットに加え、過去作品の配信収入が好調。グローバルビジネスは「SASUKE」のフォーマット販売が引き続き好調。事業部門全体で増収増益。

(単位：百万円)

部 門	2022年度	前年差	主な増減要因
事業 (催事・興行)	10,583	+5,086	舞台『ハリー・ポッターと呪いの子』の公演開始、「パリ・サン＝ジェルマン ジャパンツアー2022」の成功が大きく貢献し、大幅増収。
映画	2,245	+203	「ラーゲリより愛を込めて」、「わたしの幸せな結婚」といった大ヒット作の興行収入や、「99.9-刑事専門弁護士-THE MOVIE」や「糸」等の過去作品の配信収入が好調のため増収。
アニメ	1,892	+558	映画「五等分の花嫁」の大ヒットに加え、「プラチナエンド」等の配信収入が好調のため増収。
グローバルビジネス (旧：海外ビジネスセンター)	2,401	+472	2021年7月より海外番販事業の一部をテレビ部門に移管したが、フォーマット販売やロイヤリティ収入が好調のため増収。
メディア事業	8,403	△414	CS事業はアロケーションの向上などがあったものの、前年同期の水準には届かず減収。
マーチャンダイジングセンター (旧：ライセンス事業)	2,291	+89	「クロサギ」や「君の花になる」など10月ドラマの商品化が好調なことに加え、朝のベルト番組「ラヴィット！」のキャラクター「ラッピー」のIP展開が好調で増収。
収入計	27,817	+5,996	
事業部門営業費用	21,373	+4,184	
部門利益	6,443	+1,812	

(単位：百万円)

	売上高				営業利益				主な増減要因
	2021年度	2022年度	前年差	2023年度 予想	2021年度	2022年度	前年差	2023年度 予想	
TBSラジオ	8,743	8,490	△253	8,600	601	368	△232	550	イベント収入は好調だったものの、 広告収入がタイム・スポットとも に減収となり、減収減益。
BS-TBS	16,424	17,218	+794	17,600	2,450	2,780	+329	3,000	タイム収入、スポット収入の増収 に加え、配信が好調なことにより、 増収増益。
TBS グロウディア	27,539	28,089	+550	30,300	497	337	△160	1,100	企画展やイベントでの集客回復等 により増収。一方、ショッピング 部門の売上、DVD収入の減少の影 響で、減益。
日音	8,384	8,574	+190	9,300	918	836	△81	900	業務代行収入の増加により増収。 一方、邦楽、洋楽収入が落ち込ん だことにより、減益。
TCエンタ テインメント	8,182	7,122	△1,060	7,100	494	474	△19	550	DVD販売の減少により、減収減益。

▶ 雑貨小売販売事業は、感染症に伴う自粛要請解除による人流回復などの影響で大幅な増収。
 通信販売事業は、前年好調であった受注の落ち着きにより減収。ビューティ&ウェルネス事業は、化粧品販売の増加などにより増収。
 グループ全体では雑貨小売販売事業の影響が大きく、増収増益。

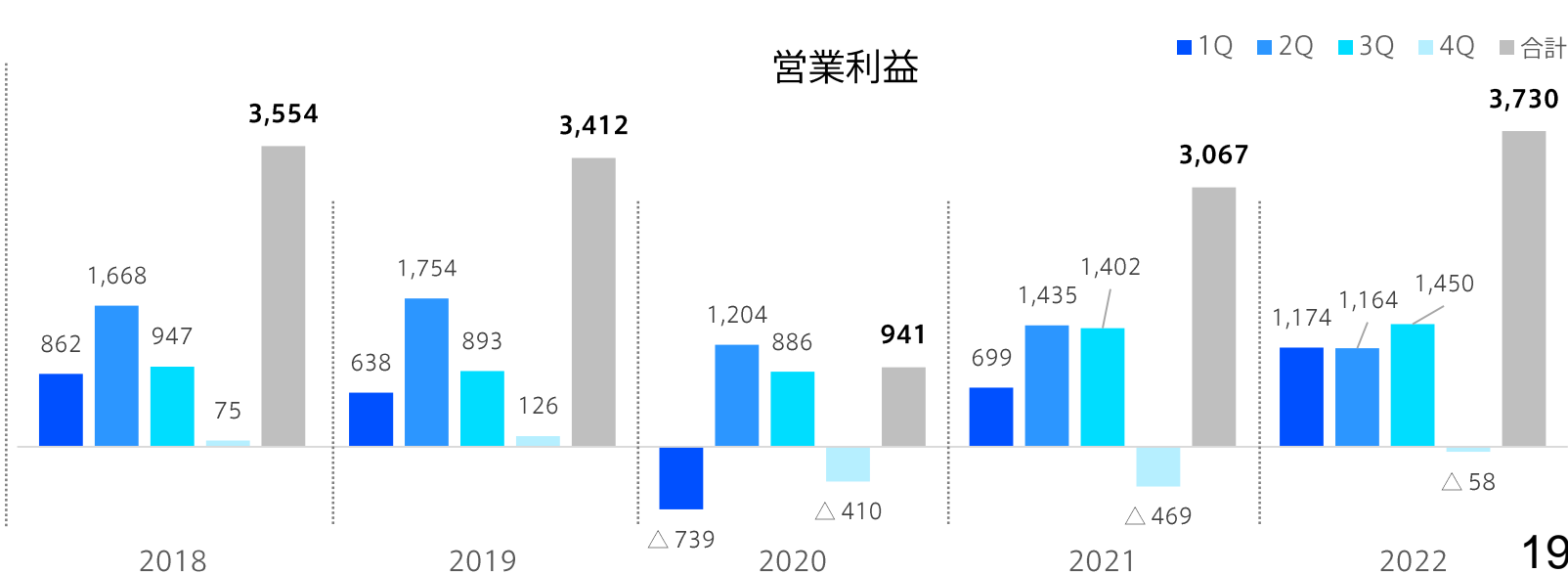
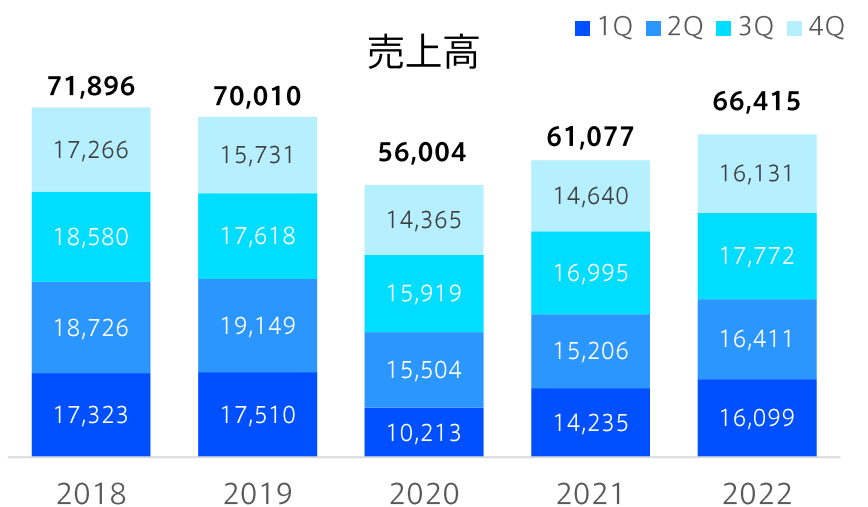
(単位：百万円)

連結	2021年度	2022年度	前年差	2023年度 予想
売上高	61,077	66,415	+5,337	70,000
営業利益	3,067	3,730	+662	4,000

(単位：百万円)

事業別	売上高(※)		
	2021年度	2022年度	前年差
雑貨小売販売事業	31,218	36,650	+5,432
通信販売事業	16,657	16,437	△220
ビューティ&ウェルネス事業	13,541	13,644	+102
本社およびその他	△340	△316	+23
計	61,077	66,415	+5,337

※事業別の売上高は管理会計上の数値



2022年度 通期決算ハイライト

2023年度 業績見通し

株主還元

経営計画の進捗と成長投資

今後の重点施策

参考資料

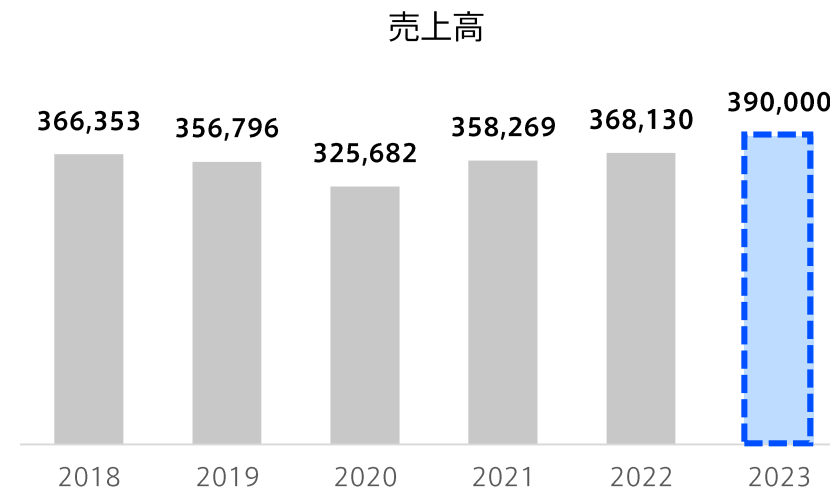
2023年度 連結業績予想

放送収入の持ち直し、成長分野である配信や、催事・興行等の事業部門の更なる伸長を見込み増収増益（営業利益・経常利益）。一方、親会社株主に帰属する当期純利益は、前年の投資有価証券売却益の反動減の影響で減益を予想。

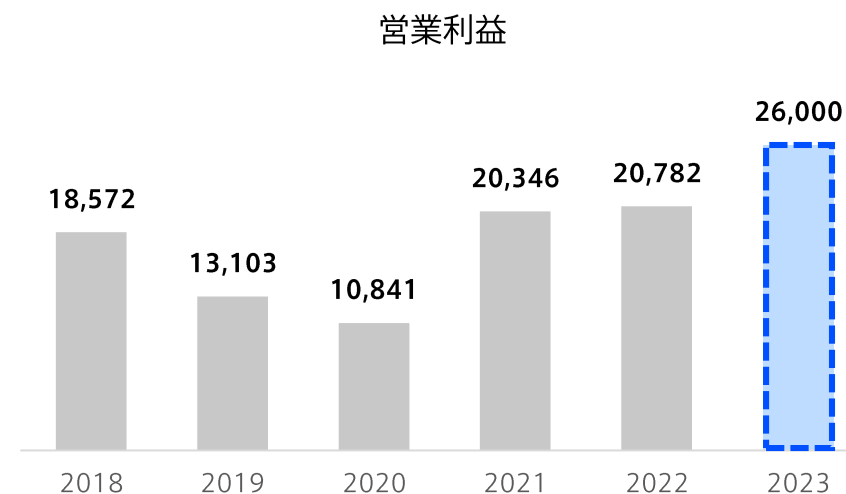
(単位：百万円)

連結	2022年度 実績	2023年度 予想	前年差
売上高	368,130	390,000	+21,869
営業利益	20,782	26,000	+5,217
経常利益	35,086	39,000	+3,913
親会社株主に帰属する 当期純利益	35,182	24,500	△10,682

(単位：百万円)



セグメント別予想	売上高			営業利益		
	2022年度 実績	2023年度 予想	前年差	2022年度 実績	2023年度 予想	前年差
メディア・コンテンツ	285,230	300,500	+15,269	10,911	15,600	+4,688
ライフスタイル	66,391	70,000	+3,608	3,064	3,300	+235
不動産・その他	16,508	19,500	+2,991	6,798	7,100	+301
調整額	—	—	—	8	—	△8
連結	368,130	390,000	+21,869	20,782	26,000	+5,217

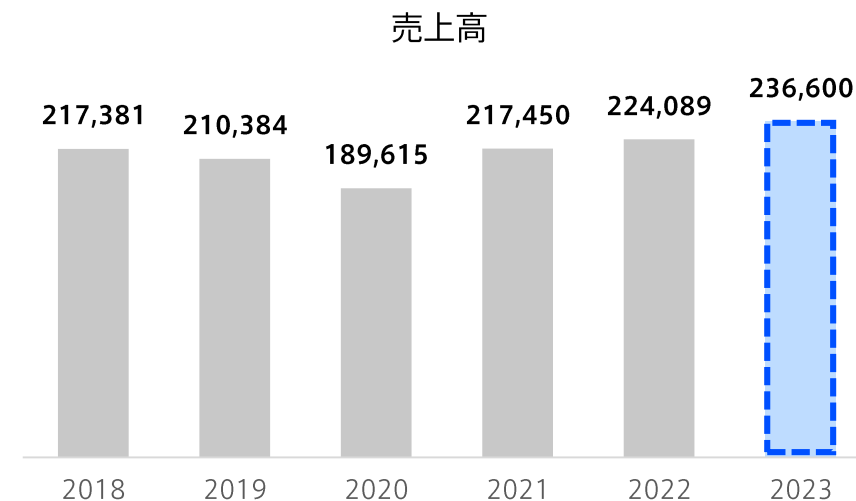


2023年度 TBSテレビ業績予想

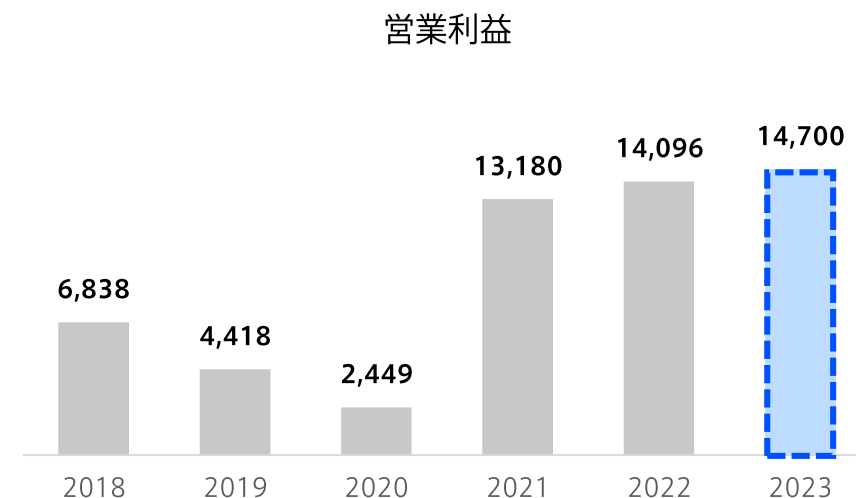
▶ 放送収入の持ち直し、配信収入や、催事・興行等の事業部門の伸長で増収増益。

(単位：百万円)

TBSテレビ	2022年度 実績	2023年度 予想	前年差
売上高	224,089	236,600	+12,510
営業利益	14,096	14,700	+603
経常利益	16,818	17,100	+281
当期純利益	10,722	11,100	+377



	2022年度 実績	2023年度 予想	前年差	前年比
タイム	79,916	81,400	+1,483	+1.9%
スポット	82,969	86,000	+3,030	+3.7%
番組原価	95,236	97,400	+2,163	+2.3%



2022年度 通期決算ハイライト

2023年度 業績見通し

株主還元

経営計画の進捗と成長投資

今後の重点施策

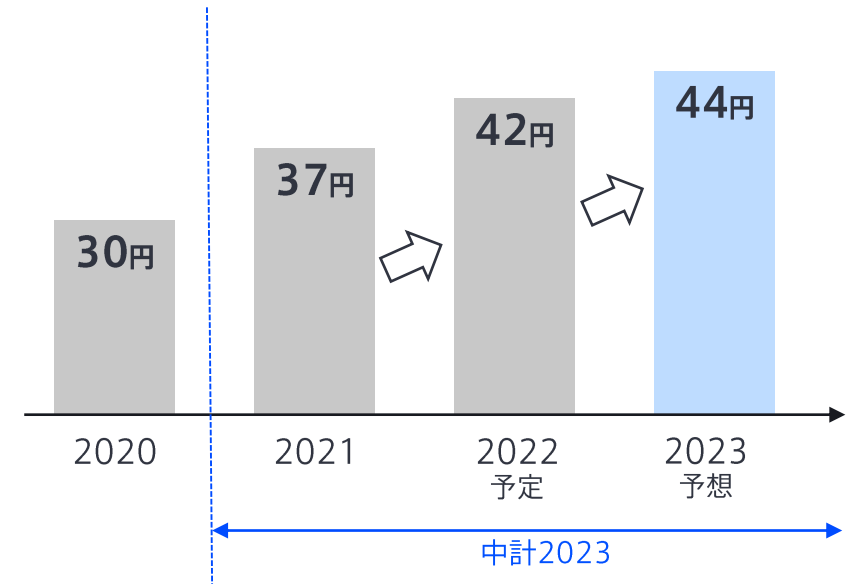
参考資料

基本方針	株主の皆様への利益還元を重要な経営課題と位置づけ、連結ベースの配当性向30%を目処としつつ、安定的かつ継続的な配当を基本とする。業績伸長等の際には、特別配当等により還元の充実に努める。自己株式取得は、これまで通り機動的に検討する。
-------------	---

中計2023 配当方針	1株当たり30円を下限とする。ただし、2期連続で当期利益を生まなかった場合は、下限配当金を見直すことがある。
------------------------	--

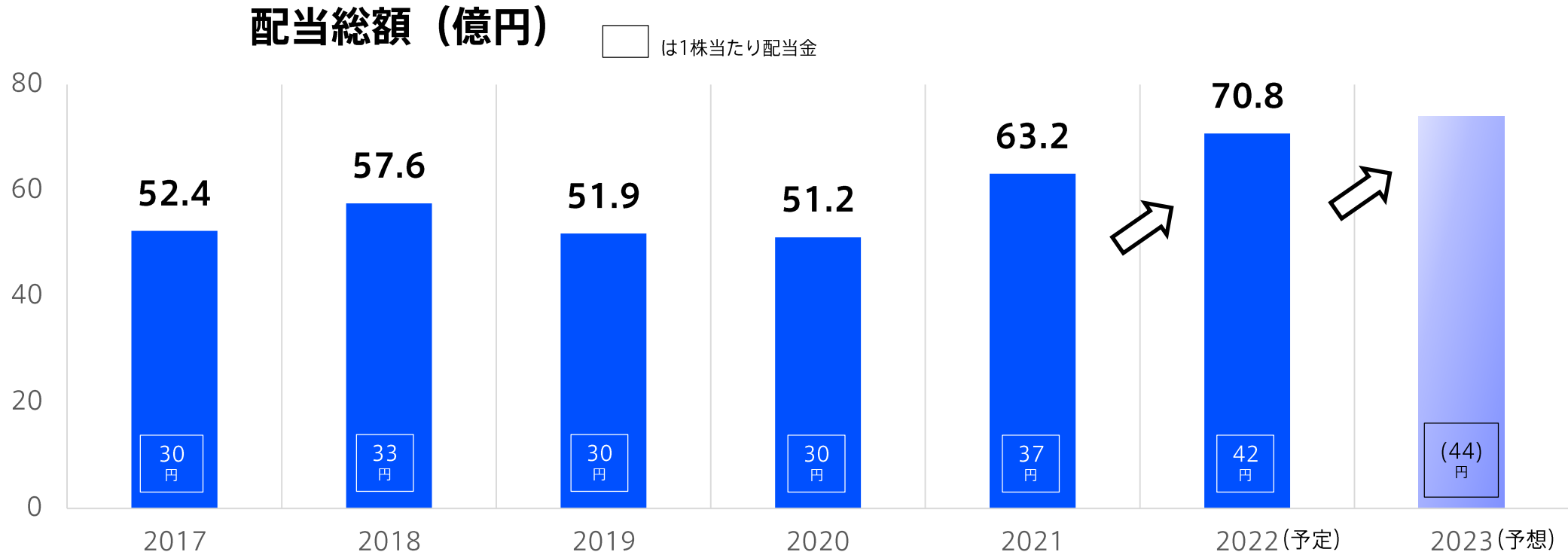
	1株当たり配当金 (円)			配当性向 (%)	特殊な要因 (★) の影響を除いた配当性向 (%)
	第2四半期末	期末	年間		
2017年度	15	15	30	30.5	30.5
2018年度	16	17	33	22.9	31.7
2019年度	13	17	30	17.3	43.0
2020年度	15	15	30	18.3	59.5
2021年度	15	22	37	19.7	30.9
2022年度 (予定)	20	22	42	20.1	30.3
2023年度 (予想)	22	22	44	29.6	—

(★) 中長期の収益拡大を目指す成長領域への投資の源泉として売却した投資有価証券から生じる売却損益は、配当額を決定する上では「特殊な要因」と位置付けております。



▶ 2022年度は5円増配の42円を予定。2023年度は2円増配の44円を予想。引き続き、安定的かつ継続的な配当を実施。

▶ 安定的かつ継続的な配当を基本としつつ、引き続き、機動的な自己株式取得を実施。



自己株式取得額

66億円			
2019年度取得額		2020年度取得額	
40億円		26億円	
118億円			
2021年度取得額		2022年度取得額	
9億円		109億円	

2022年度 通期決算ハイライト

2023年度 業績見通し

株主還元

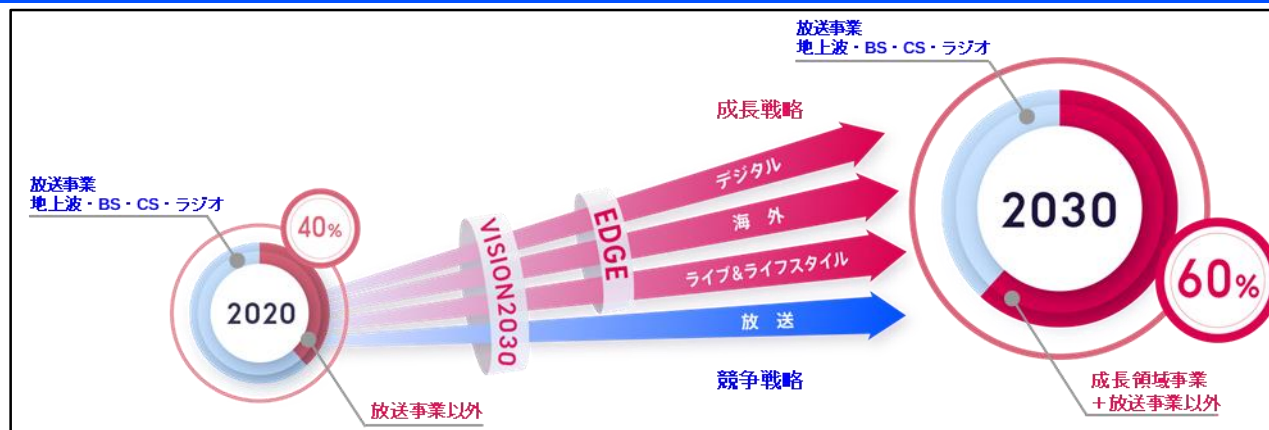
経営計画の進捗と成長投資

今後の重点施策

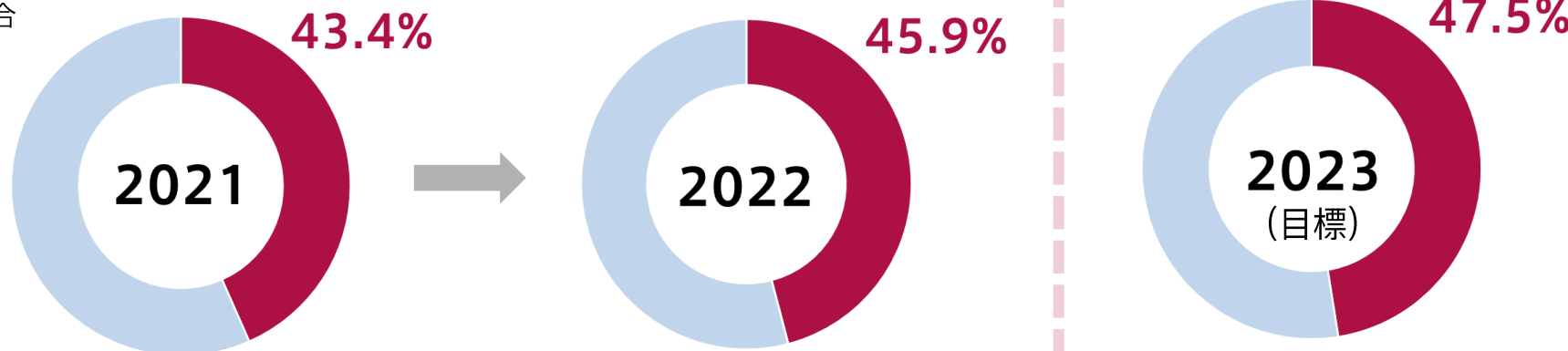
参考資料

放送事業と放送事業以外の収入割合

TBSグループ VISION2030



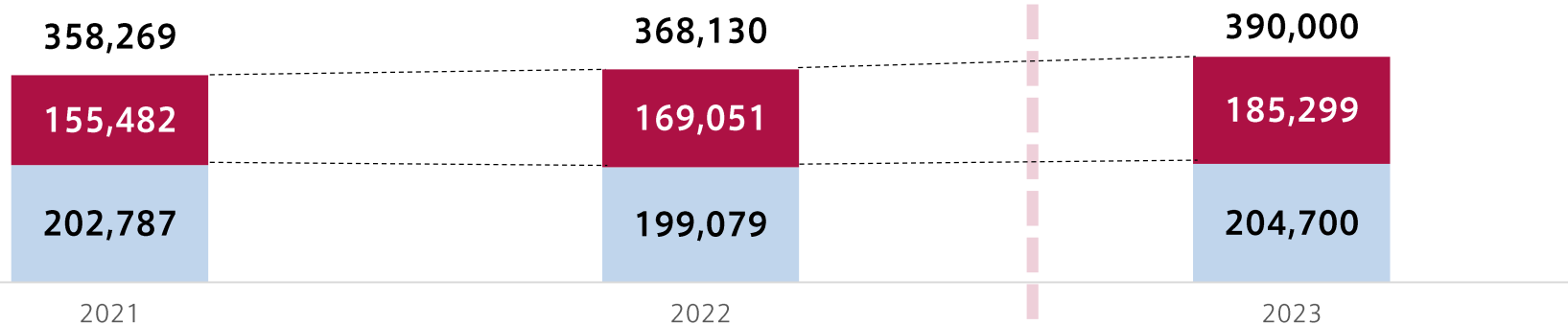
放送事業以外の収入割合



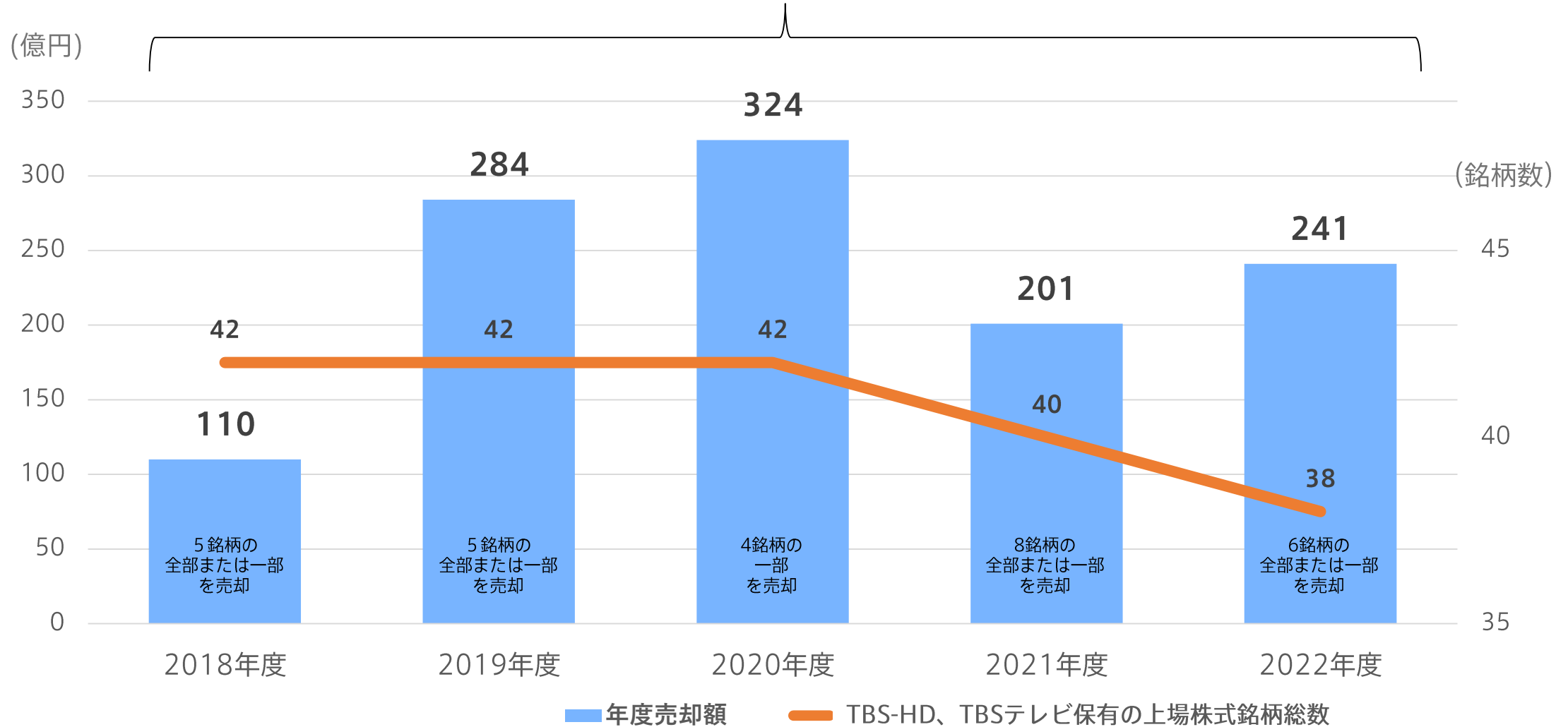
放送事業以外の収入

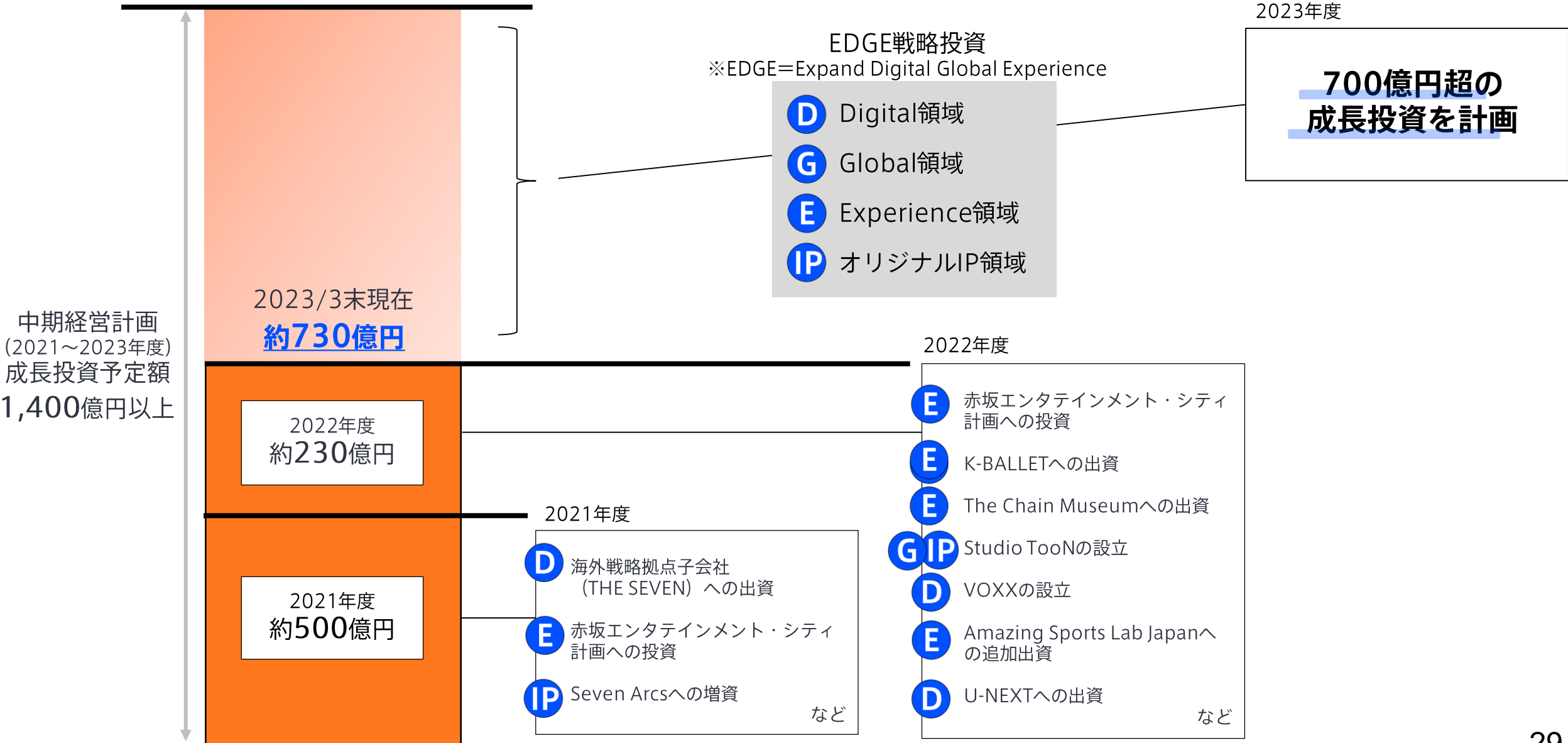
放送事業収入

単位：百万円



5年間で1,161億円の売却を実行





2022年度 通期決算ハイライト

2023年度 業績見通し

株主還元

経営計画の進捗と成長投資

今後の重点施策

参考資料

TVerの状況

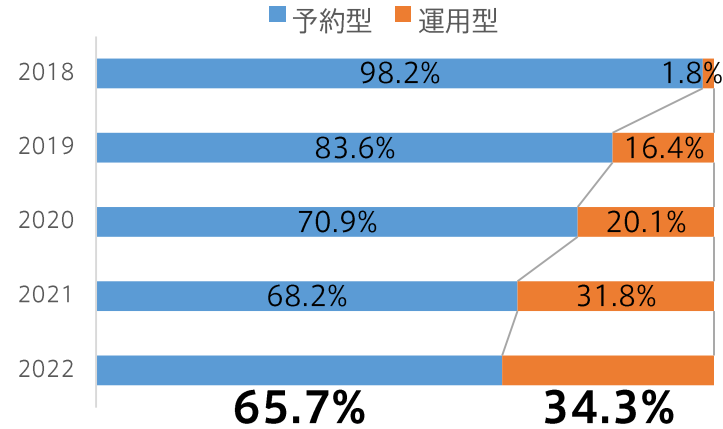
- 月間動画再生数 3億回を突破
- アプリ累計DL数 6,000万DLを達成
- 配信番組数 650番組以上 (全局総計)
(※レギュラー番組)

TVerは動画配信プラットフォームとして
着実に成長中



出所：TVer NEWS RELEASE (2023.4.24)

TBSのTVer収入構成比

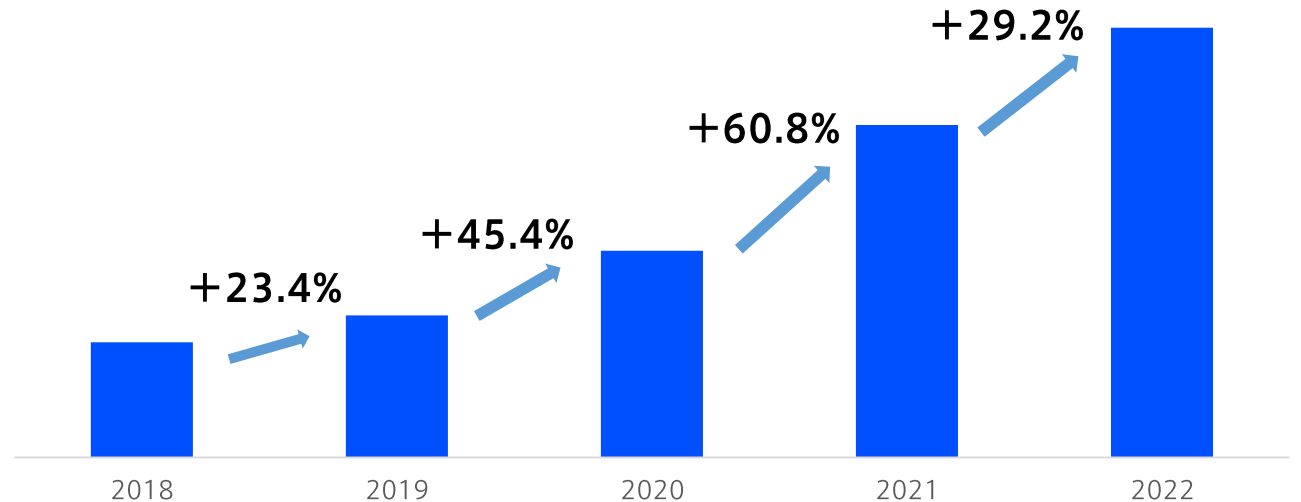


VOXX の活用で、セールス効率の最適化へ

TBSの業種別ランキング

1	精密機器・事務機
2	情報・通信・放送
3	総合電機機器
4	外食・サービス
5	化粧品・トイレタリー
6	流通
7	不動産・建設
8	ファッション
9	食品
10	官公庁・団体

TBSのTVer収入の推移



国内有料配信

- U-NEXTとParaviが統合
有料動画配信、国内勢で最大に



- ・ Paraviは7月を目途にU-Next内に移管。
- ・ 統合により売上高800億円超、
有料会員数370万人以上、
配信コンテンツ35万本以上の国内勢最大の
動画配信プラットフォームが誕生。
- ・ 両サービスの強みを生かし、より充実した
コンテンツ編成が可能となるほか
外部コンテンツの調達力やオリジナルコン
テンツの企画・制作力を大幅に高めていく。



Netflixでの新作連続ドラマの
世界配信は4作目。
今後も1クール1作品を
世界配信予定。

海外有料配信

Netflix

「ペンディングトレイン
- 8時23分 明日君と」

Netflixシリーズ
「離婚しようよ」



2023年6月
世界配信開始予定

Amazon Prime Video

Amazon Original
「風雲！たけし城」



2023年4月 世界配信を順次開始

THESEVEN

- 2023年秋にラインアップを発表

2022年11月にNetflixと締結した戦略的提携契約に加え、
その他の海外OTTに対しても企画・提案を行っており、
23年度中に複数本のラインアップを発表予定。

赤坂エンタテインメント・シティ計画



舞台『ハリー・ポッターと呪いの子』
ロングラン上演中。

TBS THE MARKET



THE MARKET POPUP企画
番組発オリジナルIPを商品化し、
期間限定商品など販売企画を展開。



赤坂二丁目・六丁目再開発計画
2028年の竣工に向け、順調に工事が進行中。
東棟は鹿島建設、西棟は大林組の施工に決定。

学びネクスト事業



公演とスクール事業の
相乗効果で収益を拡大



2023.03.05 grand open
新スタジオ「TEDDY'S BALLET」
白金高輪にオープン

都内だけでなく、地方都市や
アジア諸国への出店を計画



スポーツ教育事業の基盤
持分法適用会社化

- バルサアカデミーキャンプなどキャンプ事業
- U-12ジュニアサッカーワールドチャレンジなど大会運営
- 留学・遠征事業
- エリート養成の拠点となるアカデミー事業 など

番組との連携や、新規事業の開拓など
提携事業の模索が進行中

現代アート推進プロジェクト



22年9月にドラマストリームとの美術展コラボレーション実施
今後、ドラマ等の番組コンテンツとのコラボレーションを予定

●今後の主なラインナップ

2023/5/12 現在

	期間	タイトル	備考
映画	2023/4/28公開	「劇場版 TOKYO MER ~走る緊急救命室~」	配給：東宝
	2023/7/7公開	「交換ウソ日記」	配給：松竹
	2023/9/8公開	「禁じられた遊び」	配給：東映
	2024公開	「片思い世界」	配給：東京テアトル、リトルモア
興行	2022/7/8 - ロングラン	舞台「ハリー・ポッターと呪いの子」	TBS赤坂ACTシアター
	2023/5/7 - 17	ミュージカル「エリザベス・アーデンVS.ヘレナ・ルビンスタイン」	日生劇場
	2023/5/24 - 28	熊川哲也KバレエカンパニーSpring2023「蝶々夫人」	東京文化会館大ホール
	2023/7/5 - 23	ブロードウェイ・ミュージカル「ウエスト・サイド・ストーリー」	東急シアターオーブ
	2023/7/1 - 17	浅田真央アイスショー「BEYOND The Final」千秋楽公演	アリーナ立川立飛
	2023/7/31 - 8/3	「ル・グラン・ガラ2023」	東京文化会館大ホール
	2023/8/14 - 9/10	ミュージカル「ファントム」2023	東京国際フォーラム ホールC
	2023/9/7 - 24	ミュージカル「生きる」	新国立劇場 中劇場
	2023/9/14 - 18	「浜村渚の計算ノート」	サンシャイン劇場
	2023/10/1 - 11/12	「レディマクベス」	よみうり大手町ホール
	2023/10/8 - 29	熊川哲也KバレエカンパニーAutumn Tour2023「眠れる森の美女」	Bunkamuraオーチャードホール 東京文化会館大ホール
2023/11	「ロスメルスホルム」	新国立劇場 小劇場	
催事	2023/3/18 - 6/11	憧憬の地 ブルターニュ モネ、ゴーガン、黒田清輝らが見た異郷	国立西洋美術館
	2023/9/20 - 12/11	イヴ・サンローラン展	国立新美術館

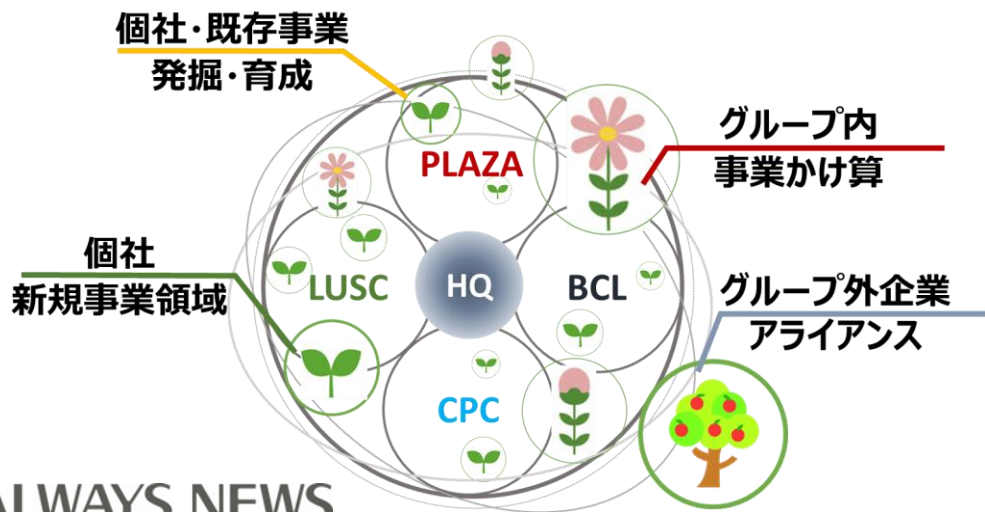
VISION2030

グループ拡張戦略

新事業領域への挑戦を継続

SLHグループ未来デザイン

衣・食・住＋美 Beauty&Wellness



社会課題解決

ESGを通して
企業としての社会的責任と向き合う

“CONNECT”
つながろう、つなげよう



- C**reative : 単純な節約や削減や我慢だけでなく、創造的で、工夫のある、楽しい
- O**pen : 社員のみならずステークホルダーもみな参加できるような、開かれた
- N**o-nonsense : やってるふりのない、“wash”や矛盾のない、地に足の着いた
- Carbon **N**eutral : カーボンニュートラルなオペレーションを目指して
- Better **E**nvironment : より良い未来の環境の実現のために
- C**ompassion : 人と社会と生き物と生態系の痛みや苦しみを思い遣り、分かり
- T**enderness : 人と社会と生き物と生態系に対して、親切に、優しく

人気急上昇！

PLAZA STYLE×BCL COMPANY 共同開発プロジェクト<セラメディ>

ダメージを抱えた髪にもしっかりアプローチ！
潤いロックして徹底プロテクト。
髪のバリア機能に着目したヘアケア誕生。

<https://www.bcl-brand.jp/brand/ceramedi/>



PLAZASTYLE

あなたの街にPLAZAがやってくる！

PLAZA
KOBE
HARBORLAND
umie
OPEN
2023.3.3 FRI.

PLAZA
AEONMALL
TOYOKAWA
OPEN
2023.4.4 TUE.

PLAZA
LALAPORT
KADOMA
OPEN
2023.4.17 MON.



SDGsの取り組み



SDGsの全社プロジェクト『地球を笑顔にするWEEK』第6弾（2023/5/14~20）を実施



TBSテレビでは、SDGsウィークの締めくくりとして、最終日の5/20（土）午後2時から大型特番『一緒にやろう SDGsの日』を8時間にわたって生放送。



5/18（木）～21（日）まで、赤坂のサカス広場を中心に、イベントを開催する。

今回のテーマ「一緒にやろう、SDGs」に則して、TBSがこれまで培ってきた知見やネットワークを活かして、“SDGsの17の目標を体験できる場”を作っていく。

外部評価



2021年10月に発足した「サステナビリティ委員会」（委員長：佐々木代表取締役社長）のもとに「ウェルネス・ワーキンググループ」を設置し、社員が心身ともに安全で働きがいがあり、創造性を発揮できる職場づくりを進め、健康経営を推進しております。この活動に対し、2023年3月、経済産業省及び日本健康会議より、「健康経営優良法人2023（大規模法人部門）」に認定されました。特に「従業員間のコミュニケーションの促進」「退職後の職場復帰、就業と治療の両立」「女性特有の健康課題への対応」の3項目で高評価を得ています。

GPIFの国内株式運用機関が選ぶ「改善度の高い統合報告書」に選定

「TBSグループ 統合報告書2022」が、年金積立金管理運用独立行政法人（以下、GPIF）の国内株式運用機関が選ぶ「改善度の高い統合報告書」に選出されました。

GPIFでは、毎年、国内株式の運用を委託している運用機関に対して「優れた統合報告書」と「改善度の高い統合報告書」の選出を依頼し、その結果を公表しています。今回の「改善度の高い統合報告書」には、当社を含む95社が選定されました。

●新任社外取締役候補者について

氏名	略歴
武井 奈津子 (1961年2月10日生)	1983年4月 ソニー株式会社 入社 (法務部) (現ソニーグループ株式会社) 2013年6月 ソニー株式会社 業務執行役員 S V P 2021年6月 ソニーグループ株式会社 常務 法務、コンプライアンス、プライバシー担当 法務部 シニアゼネラルマネジャー

●新任執行役員について

新たな執行役員として

TBSグループ アニメ事業統括
TBSグループ デザイン統括

新たな特任執行役員として

グループサステナビリティ推進統括

を追加しました。

2022年度 通期決算ハイライト

2023年度 業績見通し

株主還元

経営計画の進捗と成長投資

今後の重点施策

参考資料

(単位：百万円)

	2022年 3月末	2023年 3月末	比較		2022年 3月末	2023年 3月末	比較
流動 資産	198,692	209,058	+10,366	流動 負債	75,592	104,059	+28,467
				固定 負債	243,037	167,621	△75,415
				負債 合計	318,629	271,681	△46,948
固定 資産	1,002,939	858,807	△144,132	純資産 合計	883,002	796,184	△86,818
				自己 資本	868,455	780,667	△87,788
				非支配 株主持分	14,547	15,517	+969
資産 合計	1,201,632	1,067,865	△133,766	負債 純資産 合計	1,201,632	1,067,865	△133,766

期末有利子負債残高： 200億円 (前期末比 △60億円)

※リース債務は除く

(単位：百万円)

	2021年度	2022年度	前年差
営業活動による キャッシュ・フロー	△2,853	30,632	+33,485
投資活動による キャッシュ・フロー	△8,154	△7,346	+807
財務活動による キャッシュ・フロー	△8,164	△24,491	△16,327
現金及び現金同等物の 増減額	△17,354	△1,118	+16,236
現金及び現金同等物の 期首残高	116,061	98,707	△17,354
現金及び現金同等物の 期末残高	98,707	97,589	△1,118

新ファミリーコア視聴率（4～49歳）

(※ []内は前年同期差 単位：%)

	全日	ゴールデン	プライム	ノンプライム
TBS	③1.5 [△0.2]	②3.1 [△0.3]	②3.0 [△0.3]	③1.1 [△0.1]
日本テレビ	①2.8	①5.0	①4.7	①2.2
テレビ朝日	④1.4	④2.7	④2.7	④1.0
テレビ東京	⑥0.5	⑥1.4	⑥1.3	⑥0.3
フジテレビ	②1.8	②3.1	②3.0	②1.4
NHK	⑤0.8	⑤1.6	⑤1.4	⑤0.6
PUT	9.8 [△1.5]	18.3 [△2.9]	17.4 [△2.8]	7.6 [△1.2]

(2022/4/4～2023/4/2：週ベース)

(ビデオリサーチ調べ：関東地区)

(※ []内は前年同期差 単位：%)

	全日	ゴールデン	プライム	ノンプライム
TBS	④2.8 [△0.2]	④4.3 [△0.3]	④4.2 [△0.3]	④2.4 [△0.2]
日本テレビ	①3.6	①5.8	②5.4	①3.1
テレビ朝日	①3.6	②5.6	①5.6	①3.1
テレビ東京	⑥1.2	⑥3.2	⑥2.8	⑥0.8
フジテレビ	⑤2.4	⑤3.8	⑤3.8	⑤2.1
NHK	③2.9	③5.2	③4.5	③2.5
PUT	19.6 [△2.2]	32.3 [△3.5]	30.3 [△3.3]	16.5 [△1.9]

(2022/4/4 ~ 2023/4/2 : 週ベース)

(ビデオリサーチ調べ：関東地区)

TBSテレビ タイム・スポット収入 対前年比

TBS

(単位：百万円)

	タイム			スポット				備考
	2022年度	前年差	増減率	2022年度	前年差	増減率	地区投下 (推計)	
4月	7,036	△193	△2.7%	7,380	+216	+3.0%	△0.3%	タイムレギュラーセールスで減収。
5月	6,560	△166	△2.5%	7,200	△271	△3.6%	△3.9%	
6月	5,968	△351	△5.6%	6,927	△302	△4.2%	△12.7%	ウクライナ情勢や原材料費の高騰などに起因し、スポットの地区投下量低調。
7月	8,541	+644	+8.2%	6,596	+196	+3.1%	+8.1%	
8月	5,953	△2,176	△26.8%	5,669	+663	+13.3%	+8.9%	前年の「東京オリンピック・パラリンピック」の反動でタイムは減収、スポットは増収。
9月	6,048	+145	+2.5%	5,991	△327	△5.2%	△9.8%	
10月	6,776	+6	+0.1%	7,282	△25	△0.3%	△4.8%	
11月	6,646	△195	△2.9%	7,808	+127	+1.7%	△6.5%	
12月	6,939	△21	△0.3%	7,660	△222	△2.8%	△6.7%	
1月	7,080	+66	+0.9%	6,406	△565	△8.1%	△2.8%	
2月	5,552	△518	△8.5%	6,224	+104	+1.7%	△0.3%	前年の「北京オリンピック・パラリンピック」の反動でタイムは減収。
3月	6,810	+846	+14.2%	7,819	△1,185	△13.2%	△12.0%	「WBC2023」によりタイムは増収。
1Q	19,565	△711	△3.5%	21,508	△357	△1.6%	△5.6%	
2Q	20,544	△1,386	△6.3%	18,257	+533	+3.0%	+1.7%	
3Q	20,362	△211	△1.0%	22,752	△120	△0.5%	△6.1%	
4Q	19,442	+393	+2.1%	20,451	△1,645	△7.4%	△5.9%	
通期	79,916	△1,915	△2.3%	82,969	△1,589	△1.9%	△4.3%	

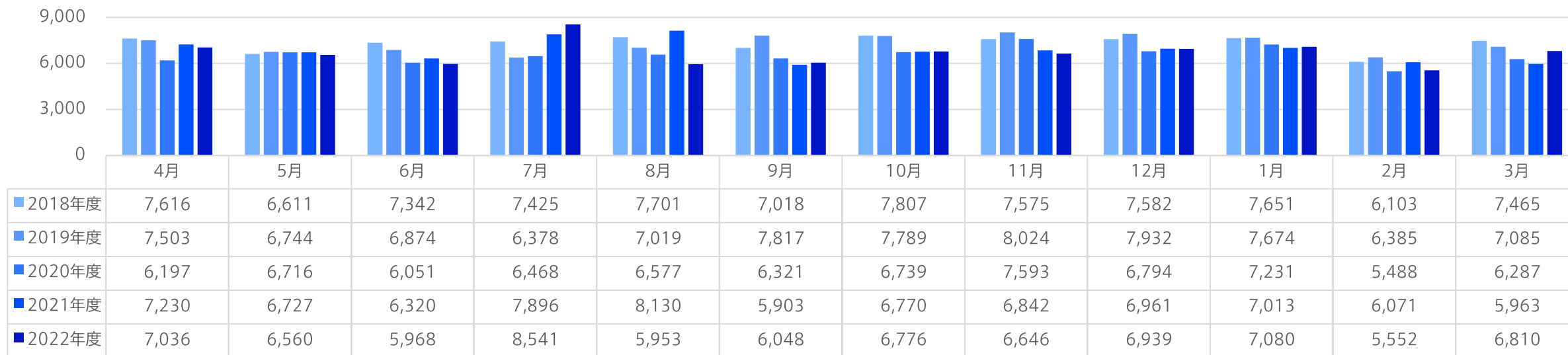
●スポット5局シェア（推計） 四半期推移

2018年度 19.1% (累計)				2019年度 19.3% (累計)				2020年度 19.7% (累計)				2021年度 20.1% (累計)				2022年度 20.6% (累計)			
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
19.3	19.2	18.7	19.1	20.2	19.2	19.0	18.9	20.5	20.2	19.4	19.3	20.4	20.3	19.7	20.0	21.2	20.6	20.9	19.6

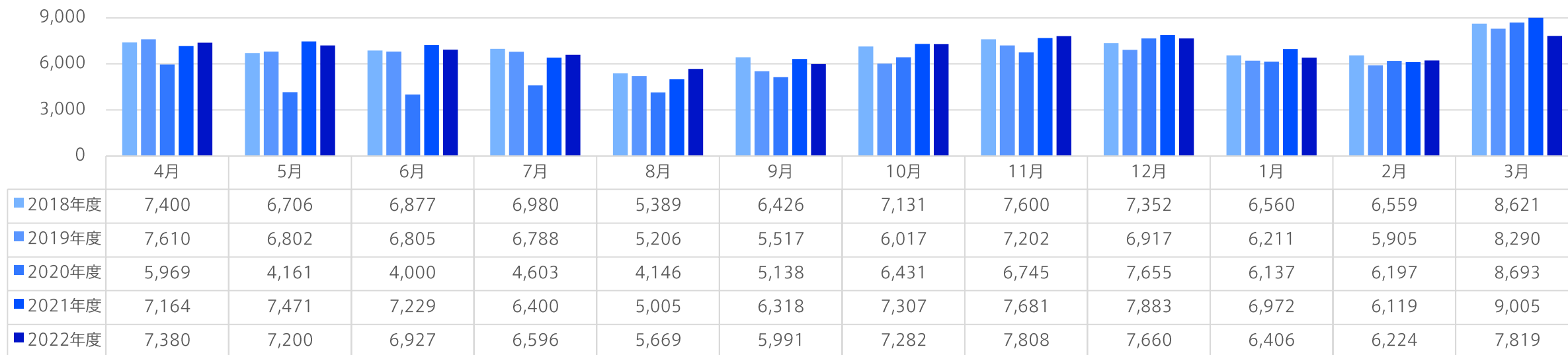
TBSテレビ タイム・スポット収入 経年推移

(単位：百万円)

●タイム収入



●スポット収入



(単位：%)

	2022年度	増減率	シェア	2021年度	増減率	シェア
1	情報・通信・放送	△11.7	18.1	情報・通信・放送	+37.2	20.2
2	外食・サービス	+25.5	9.3	酒・飲料	+36.0	10.2
3	酒・飲料	△11.3	9.2	食品	△7.5	7.9
4	食品	+1.2	8.2	外食・サービス	+28.4	7.3
5	医薬品	△4.9	6.8	医薬品	+2.8	7.0
6	金融	△0.6	5.8	化粧品・トイレットリー	+11.8	6.4
7	不動産・建設	+15.2	4.8	金融	+52.8	5.8
8	交通・レジャー	+25.5	4.8	エンタテインメント・趣味	+60.6	4.4
9	化粧品・トイレットリー	△32.6	4.4	自動車・輸送機器	△8.3	4.2
10	自動車・輸送機器	+1.1	4.3	不動産・建設	+38.9	4.1

※ 順位は金額順

メディア・コンテンツ/ 不動産・その他 (1社)

(株) TBSテレビ

メディア・コンテンツ (13社)

(株) TBSラジオ

(株) BS-TBS

(株) CS-TBS

(株) TBSスパークル

(株) TBSグローディア

(株) TBSアクト

(株) Seven Arcs

TCエンタテインメント (株)

TBS International, Inc.

(株) TBSメディア総合研究所

(株) 日音

(株) マンガボックス

(株) THE SEVEN

ライフスタイル(3社)

(株) スタイルライフ・ホールディングス

(株) CPコスメティクス

(株) ライトアップショッピングクラブ

不動産・その他(5社)

赤坂熱供給 (株)

(株) TBS企画

(株) TBSサンワーク

(株) TBSヘクサ

(株) 緑山スタジオ・シティ

持分法適用(4社)

(株) リトプラ

(株) WOWOW

碧芯珞(上海)化粧品有限公司 / BCL China Inc.

(株) Amazing Sports Lab Japan